

## ー九州地区ニュースー

今年度は、長崎地域、北九州・福岡地域、久留米・大牟田地域の活動に熊本の二の丸保育園が状況次第で担任・園長だけの参加など柔軟な年長交流をしてきました。各園クラス閉鎖や職員のコロナの後遺症による体調不良等で、なかなかそうすることができませんでした。前期は地域ごとに年長交流や研修を計画。運動会後の10月後半には、久住登山に11園中7園が参加し、北九州・福岡地域は、2園で皿倉山での登山交流をしました。12月からは久留米・大牟田地域の交流に他の地域が部分参加して自園や地域に持ち帰ることで年長保育の共有をしてきました。

年齢別部会は、抗原検査をして集まることで前期・後期の2回行うことがきました。絵を見ながら日々の保育を語り、悩みを出し合うことで元気をもらい今後の保育に繋げていきました。

### <年長交流>

#### ■久留米・大牟田地域

**6月交流**・・・他園の仲間との出会いにワクワクしながらも少し緊張した様子で交流が始まりました。まず大人が仲良くなり園をこえての遊びやリズムを楽しみ、いっぱい動くことを大事にしました。

**9月交流**・・・縄跳びの布さきと色選び。「世界でたった一つの自分だけの縄跳び」と真剣に取り組んでいました。10月の交流時に編み上げた縄跳びをもって集まることを約束して解散しました。

**10月交流**・・・持ってきた縄跳びを広い体育館中で何回も飛び回りました。土台のリズムを丁寧にしながらも挑戦し始めた跳び箱・側転も大勢の仲間の中で勇気を出して取り組みました。

**11月交流**・・・縄跳びもスピードが出てきて楽しくなってきました。「本気で走る爽快さと最後までやりきる」ことを大事にして交流しました。

**12月交流**・・・「森は生きている」の世界をDVD鑑賞後、歌やリズムで堪能しました。体育館中を森にみたくて歌に合わせのリズムやカモシカになりきって楽しみました。おとなも子どもも精一杯身体を動かして寒さを吹き飛ばしました。

**1月交流**・・・馬頭琴コンサートを行い馬頭琴の音色にモンゴルの草原を感じ「スーホの白い馬」の世界を満喫しました。草競馬・競馬大会では、みんなスーホになりきって体育館中を疾走しました。寒波の襲来で3日間の交流が中日を中止せざるを得ない状況でしたが、集まれるときは、集まろうと保育計画を工夫して行いました。

**2月交流**・・・年長最後の交流は、久留米・大牟田地域だけでなく北九州・福岡地域や長崎地域、熊本地域の園も一緒に参加し最後の日を公開保育の予定。

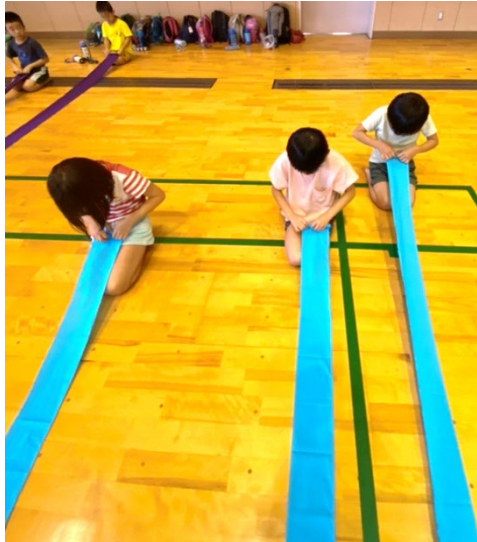
#### ■長崎地区

長崎地区は遊びの家共同保育園、桜花保育園、女の都こども園の3園と、12月にはおひさま保育園の職員が参加し、4園での交流になりました。

**6月交流**・・・6月14日から1泊2日で諫早青少年自然の家に集まり、園児32名と保育者11名でお泊り交流をしました。3年間、新型コロナウイルスの影響を受け、園外に出ることが難しかった年長の子どもたちにとって、とても良い交流になりました。広い体育館でのリズムや集団遊び、紙芝居「オッペルと象」を読み、二日目は沢登りへ出かけました。沢登りではカニを捕まえながら、得意な子は大きいカニを、苦手な子も小さなカニを自分の手で捕まえて楽しみました。夜の話し合いでは3園とも例年になく幼さを感じ、改めて保育園での日常生活の一つ一つ（姿勢、自分のものの管理、生活上必要なルールなど）を大事にしていくことを確認しました。



#### 2023. 2 発行



**9月交流**・・・編んだ縄跳びを持って諫早市ののぞみ公園に集まり、午前はホールでリズムをして、午後は見晴らしの良い公園で縄跳びや跳び箱を飛びました。6月の交流からひと夏をくぐり抜け、ひとりひとり成長が感じられました。運動会の後は、園によって久住に登山交流に行ったり、福岡の大集団の交流に参加したりとそれぞれに活動を充実させました。

**12月交流**・・・長崎県内の3園に加えて、おひさま保育園の職員2名が参加し、スーホの白い馬をテーマに日帰り交流をしました。絵本や歌に加えて、モンゴル出身のドラン馬頭琴楽団のドランさん夫婦に馬頭琴の演奏をしてもらいました。リズム遊びの中でも競馬大会や草競馬を待っていました！とばかりに楽しみました。交流の最後に歌った「光よ怒りの束になり」「ふりそぐ矢の中を」の歌声からは、この歌を歌いたいという気持ちが伝わってきました。



#### ■北九州・福岡地域

今年度も新型コロナ感染に翻弄され、思うような交流ができませんでした。一歩進めて2ヶ園での皿倉山（北九州市）登山を4・5歳児合同で行いました。

お天気にも恵まれ、途中絶壁の大岩がある国見岩で一息つき、北九州市が一望できる山頂に到着。お弁当を食べた子から広い芝生の斜面を転がり下りて鬼ごっこをして交流しました。

4歳児は、ケーブルカーを使って下山し各園に帰りましたが、年長児は別ルートであゆみの森保育園まで歩いて帰り、1泊交流を行いました。町中で生活するこぼと保育園の子どもたちには、とても魅力的な山の中での交流。翌日は運動場でリズムをした後、竹藪から竹を切りだし、火を起こして焼きそばや焼き芋でお腹を満たしました。生活を共にする中で子どもたち同士の交流が深まるのを改めて感じました。担任同士も刺激を受け合いその後の交流にもつながっています。



#### ■久 住 登 山

3年ぶりに九重青少年の家に泊まって久住に登ることができました。前日のアスレチックからワクワクが止まらない様子の子どもたちでした。危ぶまれていた天気も晴れ間には眼下に広がる雲海が見えたり、途中で出てきた霧に「雲をたべた」と大喜びしたりと自然を感じた登山となりました。頂上では、強い風に翻弄されながらも達成感に笑顔いっぱいでした。

各園、様々な感染症に見舞われながらも自園で、県内で、九州内で、できる時にできる保育を、工夫しながら実践しています。

